

講演会及び研究集会の記録

ダルハウジー大学での研修に関する報告会

平成19年度年度計画項目「FD活動の充実」の「教員の教授能力の開発向上を目的とした、ティーチング・ポートフォリオの活用と充実を目指し、教育方法の開発に先進的に取り組んでいる海外の大学への研修に、引き続き教員を派遣する。」を踏まえ、昨年度に引き続き、本学の教員4名が派遣され、その報告会が、2007年6月27日に行われた。派遣教員は、教育学部平田淳准教授、保健学研究科中村敏也教授、理工学研究科宮永崇史教授、農学生命科学部福澤雅志准教授の4名であった。

昨年度は、初めての派遣ということもあり、事前準備も十分でなかったが、今年は、ダルハウジー大学で使用しているティーチング・ポートフォリオのテンプレートを参照して周到な準備を行った結果、報告内容も充実したものになり、本学における今後のティーチング・ポートフォリオの普及に大きく繋がるものであった。とくに、本学において弘前大学版ティーチング・ポートフォリオ「教育者総覧」が準備されているときだけに、大学における教育がどうあるべきかを派遣教員がダルハウジー大学での体験を活かし、本学の教育に還元するというもので、須藤副学長（教育・学生担当）からも、「恰も、咸臨丸で最初の太平洋横断に成功した福沢諭吉の業績にも匹敵する」との挨拶があった。日本ではあまり見られないワークショップに戸惑いながらも成果の一端が、以下のように報告された。

- 1) ティーチング・ポートフォリオの作成において、コンサルティングの重要性が認識され、「褒め上手」であるとの意見が聞かれた。
- 2) ティーチング・ポートフォリオの作成過程でコンサルタントと話し合いながら、授業への省察を深めることができた。
- 3) 派遣教員に共通した意見は、ティーチング・フィロソフィーの重要性であった。ただ、教育学部の派遣教員からは、教員養成に対応して、日頃から授業哲学を考えているので違和感が少なかったとの意見も聞かれた。派遣教員は、ティーチング・フィロソフィーという視点から、学生の授業評価の推移がわかり、データ分析において新たな視野が広がったと述べた。
- 4) ティーチング・ポートフォリオの名称は、日本で使われる一般的な呼称であるが、カナダではティーチング・ドローシエー、そしてイギリスではティーチング・ファイルと呼ばれることが紹介された。
- 5) ティーチング・ポートフォリオは、性格上、自己アピールが目的なので北米の大学のように昇進や終身雇用には適しているが、授業改善としては不向きではないかとの意見も出された。
- 6) また、ティーチング・ポートフォリオは、個人的な昇進や終身雇用が目的であり、非公開が原則なので、本学のように「教育者総覧」を公開することが適切かどうかとの意見も出された。
- 7) 派遣教員の一人から、ティーチング・フィロソフィーとは、自分がどのような教員を目指しているか、「授業哲学」を問う



ものであることを知り、「学生のハートに火をつける」と書いたところ、コンサルタントから素晴らしい実践であると褒められた。しかし、どのように火をつけるのか具体的な方法を尋ねられて困ったとの楽しいエピソードが報告された。

- 8) 授業改善は、すべての教員が実践してはじめて意義があるもので、これをどのように周知徹底するかが今後の課題であり、教員の尻に火をつける必要があるとのコメントで報告会を終えた。

(文責 土持法一)